



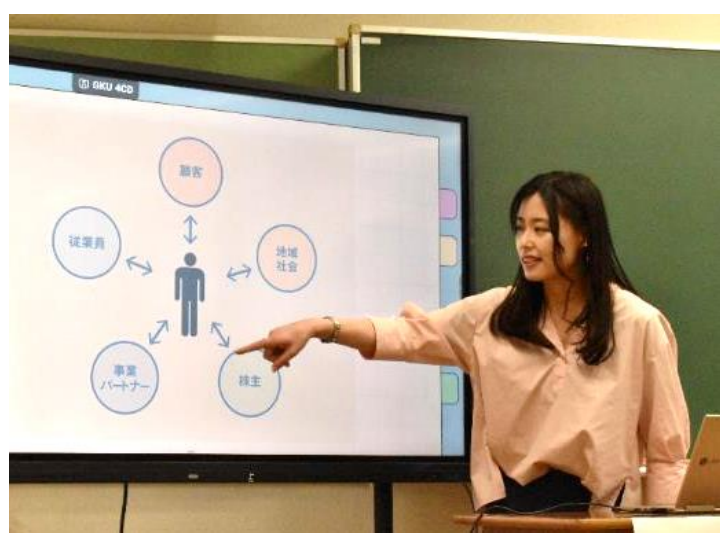
題字 井口 文章
再刊 第471号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2025

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面…起業家講演会を取材
吹部・室楽クリスマスコンサート開催!!
二面…いよいよ2日後に迫った61回生修学旅行
生物部が小学校で模擬授業を実施

「失敗を恐れずに踏み出す勇気を」

放課後に起業家講演会・ロボコン体験会開催



自身の経験をもとに起業についての説明してもらった

探究活動の一環として12月20日(金)に起業家講演会、及び12月19日(木)には1年生向けロボコン体験会が行われた。今号では、それぞれの会の様子、講師の方への取材の模様をお届けする。

起業家として大切なことは

12月20日終業式後、探究活動の一環として「Upsire(アップスパイア)代表の渡邊千紘さんによる起業家講演会が行われた。Upsireは新しく起業する人やスタートアップのマーケティングや広報のサポート、ブランディングやコミュニケーションをテーマにした研修・セミナーを開催、自治体広報のアドバイザーなどを行う会社である。

渡邊さんは起業前、企業の広報を担当する中で、広報が「様々な人とコミュニケーションをとり、社会と良い関係を築くもの」で、様々な仕事で大切なものであると実感したそう。そこで「色々な人の広報の手伝いをしたい」ともつと様々な会社と関わり仕事をしたい、ひらめいたアイデアを実現したい」という気持ちが生まれて今の会社を立ち上げた。渡邊さんは語った。

渡邊さんによれば、起業家として「失敗を恐れず挑戦する勇氣」「継続する力」「言語化力(コミュニケーション能力)」が大事な3つのポイントだ。この「言語化力」については、講演中にフェルメールという画家の「真珠の耳飾りの少女」の絵のどが美しいのかを生徒が発表し合うという言語化の練習が行われた。

講演も終盤であったが、それぞれ「青いターバンと黄色い服が対比になって綺麗」「光の当たり方が美しい」と感

12月19日(木)、62回生の進路探究の授業が行われた。1・2時間目には、体育館で各クラスの代表者による社会探究のプレゼンの発表が実施された。最初にL組代表の城實和佳さんが、映画は映画館で見るべきか」というテーマで発表をした。他にも「Royal Menu」は売れているのか?や「私の朝食はおかしいのか?」など、多様なテーマの発表が行われ、体育館が笑いに包ま

自らの進路に向けて学ぶ一日 62回生 進路探究の授業実施



時間をかけて探究してきた成果を発表する

3・4時間目は大学の先生方をお招きした模擬授業が行われ、各自が選択した学部ごとに教室に分かれて講義を受けた。外国語学の授業では、立正大学文学部文学科の井川壽子先生にお越しいただき、「このとばの世界を探る。『英語とはどんな言語か?』を出発点として」という講義が行われた。「大学でこのとばを学ぶ」とはどういうことか、というお話

自動運転ロボコン 画像認識の体験



大会で使う小型自動車の実物を見せてもらった

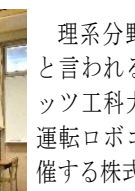
理系分野で世界最高峰と言われるマサチューセッツ工科大学協賛の自動運転ロボコンを日本で開催する株式会社 ICHINOYAの豊田幸輔さんをお招きし、自動運転ロボコンの体験会が、12月19日(木)放課後に開催された。自動運転ロボコン(以下、GLOBAL TECH)は、障害物のあるコースを自動走行する小型自動車を開発し、レースを行う大会だ。豊田さんは、GLOBAL TECHの運営責任者として中高生向けに自動運転やプログラミングに関する講義を行っており、今回の体験会では、実際にパソコンを使った画像認識の体験を行った。

ロボットに憧れた高校時代から、大学でプログラミングの世界へ

体験会後、豊田さんがなぜGLOBAL TECHを運営しているのかについてお話を伺った。「もともと飛行機や潜水艦など人間が生身でできる範囲を超えるものが好きで、高校生からは人間の能力を超える作業ができるロボットに憧れを抱きました。大学在学中から本格的にプログラミングを学び始め、知人の紹介をきっかけにマサチューセッツ工科大学で開催されるGLOBAL TECH世界大会を視察した(という)豊田さん。約100名の米中高生が自動運転ロボットを開発している様子を見て、自分が高校生の時に参加したかったと感じたそう。豊田さんは2019年から日本で運営をはじめ、コロナ規制が緩和した2023年から世界大会に日本の生徒を参加させている。

今回の体験会の質疑応答を通して、錦城生が将来進む道について不安を感じている印象を受けたと語る豊田さん。錦城生に向け、「最短距離で興味のある職業に就けるとは限らないし、気負わずに頑張ってください。また、進みたい道を探す手段としてGLOBAL TECHをご活用いただけますと幸いです」とメッセージを送った。(梟)

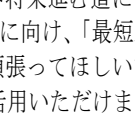
合唱祭に向けて動き出す 初のデジタル審査も導入へ



「笑顔で終われる合唱祭に」

3学期に入り、合唱祭の準備が本格化してきた。合唱祭実行委員長の岩井凛和さんと、当日の動きや当番(2日)は、二学期は異装届やプログラムなどの制作を中心プログラムなどの制作を中心活動してきたと振り返り、「今まではクラスのことをメインで、進級前最後の学校行事なので、クラスのみんなと笑って終わることのできる合唱祭にしていきたいので、頑張ります!」と意気込む岩井さん。今年初めての試みとして岩井さんはスマホやタブレットによる審査を挙げ、「紙だと時間がかかるけれど、デジタルだとすぐ審査が終わるし、細かい部分を聞いたりできると思っています」と話した。錦城生に向けて「去年はルネ小平でやっていただけけれど、今年立川のリスルホールだから皆初心者だけれど、頑張ろう!」と笑顔で呼びかけた。(泰)

吹奏楽&室内楽 クリスマスコンサート開催



数編成で演奏するアンサンブルステージ。サクソ四重奏と打楽器五重奏がそれぞれ行われ、少人数ならではの一人ひとりのソロパートも魅力的だった。

12月19日(水)に、ルネこだいら大ホールにて吹奏楽部の第46回クリスマスコンサートが行われた。第一部のクラシックステージでは、「ARSENAL」から始まる3曲を演奏した。「吹奏楽のための『風之舞』」では、クラシック調ながらもどこか「和」を感じられるような、不思議な雰囲気を楽しむことができた。続く第二部は、第一部とは異なり少人数編成で演奏するアンサンブルステージ。サクソ四重奏と打楽器五重奏がそれぞれ行われ、少人数ならではの一人ひとりのソロパートも魅力的だった。抽選でのプレゼント企画も盛り上がり、迎えた第三部のポップステージ。ロックバンド「DEEP PURPLE」の曲のメドレーには観客も手拍子で参加し、映画「ナイトメア・ピフォア・クリスマス」のセレクションでは、まるで映画の中のような壮大な音楽を味わうことができた。アンコールは「ディスコ・キッド」の息のピッタリ合った演奏で締められ、演奏会は大勢の観客からの拍手で幕を下ろした。

多くのクリスマスソングを披露

吹奏楽の優しい音色がホールを包む

12月20日、ルネ小平中ホールで、室内楽部のクリスマスコンサートが開かれた。コンサートは第1部~3部で構成され、第1部ではバレエ組曲「くるみ割り人形」が披露された。「トレバック」、「花のワルツ」など各章ごとの雰囲気合った演奏で会場を優雅なムードで包み込んだ。続く第2部では部長の小村昌史さん(2B)が「月に代わってお仕置きよ!」とあの名台詞をきめ、2年生学年曲「ムーンライト伝説」を披露した。次に披露されたのは1年生学年曲「人生のメリーゴーランド」だ。ジブリ映画「ハウルの動く城」の世界観に会場が引き込まれた。休憩をはさんで第三部では定番クリスマスソング「All I want for Christmas is you」や「そりすべり」が披露された。「そりすべり」ではトナカイの格好をした部員たちによる、パーカッションも加わり、会場をより盛り上げた。(瑞・仏)

むらさき草

先日受けたスタディサブリの国語のテストに、次のような問題があった。「谷崎潤一郎の小説を選べ。ア…『あめりか物語』イ…『細雪』ウ…『春は馬車に乗って』エ…『古都』」正直、他の選択肢の小説はよく知らなかったのだが、『文豪ストレイドッグス』(朝霧カフカ)という漫画を読んでいたので、キャラの異能力と同じ「細雪」を選ぶことができた。『そういえば昨年、生物基礎の授業でキラキラ細胞が登場した時には、感動で泣きそうだったことを思い出す。小学校のころから、『はたらく細胞』清水茜で推してきたあの「キラキラ」と、いに学校で会えた。マンガ好きが転じて、資料集に載っていたと自負している組みについては誰よりも理解ができていたと自負している▼私の好きな小説『坂の上の雲』(司馬遼太郎)も、歴史総合のテストを解くヒントになった。「真意が参謀してた日本海海戦で破ったのはバルチック艦隊だから…」と、ストーリーをなぞって正解にたどり着いた。また、英語科の某先生は、漫画『鋼の錬金術師』(荒川弘)のキャラ名を、「ROYAL(妬む)」の暗記に生かしたという。わかる人にはわかるだろう。▼勉強と言えは教科書や資料集、ひたすら試験前に暗記して…という人が多い。あるいは、「またマンガなんて読んで!」と叱る親にも身に覚えがないだろうか。しかし、私たちが教科書にない単語や文章初めて見る実験や疑問と戦わなくてはならないとき、参考にできるのは自分の知見だけである。柔軟で幅広い思考をするためには、エンタメや日常生活にだって問題を解くヒントがあるはずだ▼教科書だけじゃない。「自分の経験」の積み重ねが、学びのつながりを増やしてくれるのだと思う。修学旅行で東北・蔵王に行くのが楽しみなのだが、そんな一大イベントでもアンテナをひるげれば学びが深まるだろう。(普)

準備万端、いざ蔵王へ

61回生 蔵王スキー修学旅行に出発

実行委員、チーフの先生の想いに迫る

いよいよ来週に迫ったスキー修学旅行。しおり係やレンタル係、PR係など、これまで多くの修学旅行実行委員たちが準備を重ねてきた。編集部では今回、それぞれの係の生徒にインタビューを行ったほか、スキーを楽しむにしている生徒、また修学旅行チーフの阿部美都樹先生にお話を聞いた。

旅を彩る素敵なしおり

小さい頃からの家族でのスキー旅行の経験から立候補したという、修学旅行実行委員しおり係チーフの榎本理瀬さん(2B)。「修学旅行中はもちろん、その前後も皆が楽しく見られるようしおり」を目指し、先生へのアンケートやタイズといった項目を追加したそう。「濃くはつきりした文字で、かつ興味を引くようなページに仕上げたい」と、イメージ以上に難しかったですが、とても勉強になりました。と、苦戦したポイントも挙げた。



昨年蔵王での一枚。晴れていれば、美しい雪景色が見られる(2023年 HPより引用)

レンタル品を管理

スキー修学旅行の「縁の下」の存在が「レンタル係」。生徒がレンタルするウェアや靴のサイズを、データにまとめることが主な仕事だ。レンタル係の赤坂咲月さん(2A)は、生徒が選択したレンタル品に間違いがないか、細心の注意を払って確認したと話す。「板も小物も私物を持っていく」という人や「小物だけ持っている」といった人も居り、個人の状況に合わせて貸出方法を選んでもらう必要がある。

11月の試着会では、係で協力してサンプルの出し入れや陳列を行い、クラスメイトへ貸出パターンや注意事項を丁寧に説明した。前もって持参品、集合時間の呼びかけもしたという赤坂さん。「みんなの



PR係が発行してきた新聞の数々

「集団行動の意識をもつて」

61回生修学旅行チーフを務める阿部美都樹先生に話を聞いた。今年の修学旅行では例

生物部 小学生と特別授業「初心思い出しました」

12月20日(木)、錦城生物部は小平第九小学校との特別授業を開催した。部員が特別講師として、参加した児童12人へ向けて生物やその飼育についての説明、実演を行った。錦城の卒業生である小学校の先生からの打診によって決まったという今回の授業。生物部員の齋藤こころさん(2C)によると、当日は触れ合いの



動物を見ながら説明する

できる爬虫類・哺乳類を校内の教室に移動させ、残りの魚類などは部室で観察することができるようになったそう。齋藤さんは、小学生が部員に質問をしていた時のことを「想像もしないような質問が来ていた」と思い返す。事前に質問を考えてきていた児童もいたというだけじゃなく、こうい

うことを知っていたという目的をちゃんと持って来ていてすごいなと思いました」と新鮮な驚きを語った。また、実際に説明を行った安武小夏さん(1D)は、小学生の反応を「みんな生き物に興味があつて、話を真剣に聞いてくれた」と振り返る。「以前に生物と触れ合った経験を熱く語ってくれたらいいな」と思い、いい刺激になりました。

生物のお世話という活動内

楽しい修学旅行に向けPR

PR係チーフの寺尾まどかさん(2D)によると、蔵王やスキーについて知らせるPR新聞を作成するにあたって、PR係の人たちが各自で調べた記事を持ち寄ったという。その際に、本やネットで調べた内容に加えて、3年生の先輩に修学旅行の部屋で何をしていたかを聞いたものも記事にでき良かった、と語った。

PR新聞によって、周りの人からも「良い新聞だ」と思われた。「スキーがより楽しくなった」との感想ももらった。寺尾さんは、「係の人は一緒に頑張ってくれてありがとうごさいます。楽しい修学旅行にしましょう！」とメッセージを残した。

空手道場のマット 張り替え



空手道場のマットが12月に一新されました! 更なる空手道部の活躍にも期待です!



しおりを見て、旅の期待が高まる

震災学習について阿部先生は「二人一人が自分ごととして、将来のために学んでほしい」と61回生に呼びかけた。スキーについては、楽しめようになるためには上手にいかないことを克服すること、慣れていかなければいけないと話したうえで「自分が得意とするものでなくても高めの意」と姿勢を、スキーを通してより一層学んでほしいと語った。

修学旅行で楽しみなことは? 生徒の声を聞いてみた

貴重な五日間を楽しみたい。スキー未経験者の岩崎優那さん(2F)は、雪の大草原を自由に滑るといふスキーに前々から憧れがあったそう。3日間を通して自分の思うままに滑ることができるようになりたいたい。また、体験学習についても「味噌づくりは知識としてど

のように作られるかは知っています。実際に製造過程を観たり、作ってみたいというの初めてなのでとても楽しみにしています。最後はみんなで長く友達と一緒に過ごせる時間とスキーをする機会を大切にしたいです。雪合戦したりと、かまくらも作ってみたい」と中澤さん。「部屋での女子トークも楽しみたいです」と笑顔を見せた。



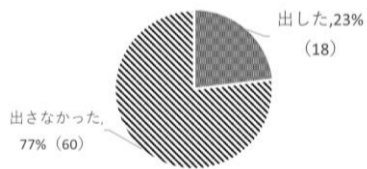
ゲレンデの看板と集合写真

き方やスキー板の取り付け方に戸惑う様子も見られたが、リフトや山頂から見える眺めに感動することもあった。二日目は曇天だったものの、午後には青空が出て、一日目と

あなたははがき派? LINE派?

今年のお正月、あなたは誰かと連絡を取り合ったのだろうか? 編集部では今回、編集委員のクラスの生徒計78人に「紙の年賀状を出したか否か」というアンケートを実施した。結果、「出さなかった」が77パーセント(60人)となった。ただ、LINEなど、SNSで新年の挨拶を送り合ったという生徒がほとんどだった。(蘭、普)

紙の年賀状を出しましたか



アンケートの結果 (％は小数点第1位を四捨五入)。

課題解決のために道を探る 有志探究リーグ 次シーズンへ

藤井喜寿人さん(2A)、小村昌史さん(2B)、隈一見さん(2E)の3人で構成されている有志チーム「三鬼を追うキナファン」の一員として活動している原口瑛子さんの活動について調査したうえで、世界規模の大きな課題を解決するための秘訣について探究することが求められている課題だ。チームは審査の結果、27チーム中8位となった。前シーズンより1ランクアップの結果となり、見事シーズン2入賞を果たした。



シーズン2入賞を成し遂げた

メンバーの小村さんは良い結果を残すことができて良かったといううえで、「次のシーズンではよりハイテクオリティなプレゼンができるように頑張りたいです」と力強く意気込んだ。残りシーズンの3のみとなった探究リーグ。最後のシーズンでの更なる飛躍に期待したい。(蘭)

仲間と助け合おう ワンダーフォーゲル部 スキー合宿

1月4日(土)から1月7日(火)にワンダーフォーゲル部は、長野県の志賀高原でスキー合宿を行った。今年も晴れに恵まれ、青い空の下で心地よく滑ることができた。また、降雪量も多く、スキーに整った環境で滑ることができた。初日は体を慣らすため、比較的滑りやすい初級コースを中心に滑った。スキー靴のほ

よりスキーが上手くなった、山を滑るのが楽しかったといった声が多く挙がった。冬合宿に参加した、ワンダーフォーゲル部の一年生は、「初めてのスキー合宿で、最初はうまく滑れるか不安でしたが、部員全員で滑っていくなかで徐々に上達していき、楽しく滑ることができました。この合宿を通して、部員との繋がりがさらに深まったような気がしました。本当に貴重な経験でした」と話してく

生徒会動静

- ▽1月9日(木) HR委員会
- ▽1月10日(金、20日月) 合唱祭実行委員会
- ▽1月21日(火) 体育学芸委員会
- ▽修学旅行実行委員会 随時活動中
- ▽中央委員会 随時活動中

大会報告

▽ソフトテニス部
12月27日
第65回 東京都高等学校ソフトテニスインストア大会 出場